

女の脳と男の脳は、どこが違うか？

ないし、効果にも個人差がある。とはいえ、今回の必須要件はやはり即効性。試すべき薬はほかにありそう。

手っ取り早く、ネットで漁ってみた。頭のよくなるという触れ込みの薬品・サプリメントはスマートドラッグと総称され、詳細な解説サイトや様々な錠剤の個人輸入サイトがあちこちに。どこもED医薬品・性病・避妊から美容・睡眠・禁煙という具合にカテゴリーズされているが、スマートドラッグもその一カテゴリーとなっている。

別の輸入代行のサイト内を「集中力」「記憶力」で検索すると、錠剤の写真の上に集中力向上、記憶力向上、さらに若返り効果といった能書きが書かれている。何だ、こんなにあるじゃないかとパソコンの前で思わず身を乗り出したが、そこはネット上の話。鵜呑みにするわけにはいかない。

どう見分ければいいのか。薬品業界全般の事情に詳しいある専門家に相談すると、彼は即座に「やめたほうがいい」と断言した。

「シロウト判断はダメ。薬が怖いのは、効かないことではなくて、どんな副作用があるかわからないことなんだよ」この専門家はかつて、あるルートを通じて「頭がよくなる、スカッとする、ED治療の秘薬」を服用したという。

「市販されてるとも聞いたけど、薬の名前は忘れた。二錠飲み込んで車を運転したら、確かに一〇分も経たぬうちに効いてきた。でも、それと同時に白

認知機能アップが期待できる主な薬

※ 岡嶋研二医師への取材をもとに作成

薬品名	商標名	主な用途
セファランチン	セファランチン	脱毛症
アゼルニジピン	カルブロック	降圧剤
プラバスタチン	メバロチン	高脂血症
イミダプリル	タナトリル	降圧剤
シロスタゾール	プレタール	抗血栓薬
ドネペジル	アリセプト	アルツハイマー病
スクラルファート	アルサルミン	胃潰瘍
レバミピド	ムコスタ	胃潰瘍
メトホルミン	メトグルコ	糖尿病



Kenji Okajima

岡嶋研二

1953年、大分県生まれ。
78年、熊本大学医学部卒業。
91年、ウィーン大学医学部医科生理学研究所留学。
熊本大学医学部講師、同助教授を経て2005年、名古屋市立大学大学院医学研究科教授。
12年より現職。
専攻はストレス学、血液学。
著書に『薄毛の食卓』。

名古屋Kクリニック

コーヒー、炭酸水、唐辛子の効用

「素人判断で服用すると、主たる効果は出るかもしれないが、副作用がある。医師に相談しなければ非常に危険です」名古屋Kクリニックの岡嶋研二医師は、怖気づく筆者にそう話した。「従来のスマートドラッグは、服用してみたらずええ、といった実経験

「素人判断で服用すると、主たる効果は出るかもしれないが、副作用がある。医師に相談しなければ非常に危険です」名古屋Kクリニックの岡嶋研二医師は、怖気づく筆者にそう話した。「従来のスマートドラッグは、服用してみたらずええ、といった実経験

が根拠。きちんと臨床試験を行って、たとえば認知症の進行の抑制に成功した、といったデータの裏付けはまったくないと思います。玉石混交ですね」

岡嶋氏は名古屋市立大学大学院教授時代の二〇一〇年、赤ワインに含まれるポリフェノールが、学習機能や脳の海馬を活性化させるメカニズムを解明したことで知られているが、〇九年七月に、インスリン様成長因子I（IGF-I）という物質が、組織内で血流を増やすメカニズムを一五年かけて共同で解明、発表している。

「IGF-Iにそうした作用があることはわかっていたが、そのメカニズムは不明でした。我々はそれを解明し、さらに副作用なしでIGF-Iを増やす方法を見つけました」（岡嶋氏）

その方法を端的に説明すると、まず胃の知覚神経を刺激し、それが脳を介して全身に広がり、認知機能を司る脳の海馬の神経細胞を活性化、神経系ネットワークを刺激し、全身でIGF-Iを増やす。現在、岡嶋氏は皮膚で増えたIGF-Iを育毛治療に役立てているが、増えたIGF-Iは脳内の血流にも影響を与え、認知機能が改善つまり頭がよくなるという。

「IGF-Iが増えることは育毛で実証済み。今、頭がよくなることをきちんと理論立てて説明できる薬のメカニズムはこれだけだと思います」（岡嶋氏）このIGF-Iを増やし、認知機能向上が期待できる薬の一覧が上の表だ。